１０月１３日　鶴城「笹踊り」に北中生４名参加

地域の悩みは後継者不足。とりわけ子どもの少なさが、地域の活性化に大きく関わります。地域の人たちは、昔から続いている伝統文化や芸能を守っていかなければならないと頑張っています。そこで途絶えたら、その文化や芸能は消滅してしまうからです。

そういう意味で、行事のボランティアと性格を異にするのが、伝統行事への参加です。この日の鶴城地区の「笹踊り」がまさにそれです。今回鶴城地区に生まれ、そこで育った子供たちが、地域の伝統を守りました。日吉地区の「歌舞伎」、鶴城地区の「笹踊り」、存続は未来を生きる子供たちにかかっています。

鶴城地区の子どもたちは９月８日（日）から、毎週日曜日に公民館や神社の境内に集まって「笹踊り」の練習に取り組みました。29 日（日）には衣装を着て水野市長の激励を受けました。

当日奉納された「笹踊り」の様子

当日は台風一過のさわやかな秋晴れ。絶好の祭り日和となりました。瑞浪北中からも 1 年男子１名、2 年男子２名、2 年女子１名の計４名が踊り手として参加しました。

地区のお年寄りから幼い子どもまで多くの方が見つめる中、「笹踊り」が厳かに始まりました。派手な動きはありませんが、神に奉納する舞いなだけに、ゆったりとした動きに厳かな雰囲気が漂っていました。

「私たちの時には（子供が多くいて）もっともっと賑（にぎ）やかでした。子どもの数がずいぶん少なくなってきたのは寂しい気がしますが、この子たちが伝統文化を受け継いでくれてうれしく思います。」

こんな声も聞かれました。ボランティアとはまた違う意味での地域貢献にも北中生の積極性が発揮されることを期待します。